学校番号	1013

令和２年度　芸術科 書道

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書道Ⅰ（東京書籍）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させ、芸術科書道に親しみやすい教材を通して様々な書体を体験することで、自分らしい文字を書くことができるようになることを目指します。
・身近に飾れる作品を制作することで、書表現の楽しさを実感し、また達成感を味わいます。
・授業の進め方は、毎授業での目標を明確にし、鑑賞を通して制作の意図や技術を学習する。評価方法については、各単元・毎授業の取り組み方、作品や制作カードの提出でおこなう。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	B:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用、文字および書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・学習カード	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="3">一学期</td><td>書写と書道</td><td>・「書写」から「書道」へ
・線の表情について
・漢字の変遷について</td><td>○
○
○</td><td>
○
</td><td>
○
</td><td>○
○
○</td><td>a:今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。
b:様々な線を表現するための技術を構想している。
c:基礎的な技術を理解し、表現している。
d:さまざまな書のよさを味わっている。</td><td>・学習活動への参加状況
・学習カード
・提出作品</td></tr>
<tr><td>篆刻</td><td>・自分の名前調べ(篆書)
・名前の1文字印
(六分印)</td><td>○
○</td><td>○
○</td><td>
○</td><td>○
○</td><td>a:篆書に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。
b: 篆書の特徴を生かして、草稿や印稿などを工夫している。
c: 篆刻の手順について理解し、名印を刻すことができている。
d: 篆刻の手順について理解している。</td><td>・学習活動への参加状況
・学習カード
・提出作品</td></tr>
<tr><td>漢字の書
(楷書の古典に学ぶ)</td><td>・楷書の学習
「九成宮醴泉銘」
「孔子廟堂碑」
「顔氏家廟碑」
「牛橛造像記」</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">a:さまざまな楷書や行書について関心をもち、書風の違いについて理解しようとしている。
b:各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ、書風を生かした表現を工夫している。
c:各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ、書風を生かした表現をすることができる。
d:さまざまな古典を鑑賞し、書風の違いについて理解している。</td><td rowspan="3">・学習活動への参加状況
・学習カード
・提出作品</td></tr>
<tr><td rowspan="2">二学期</td><td>漢字の書
(古典臨書のまとめ)</td><td>・楷書の創作
・書道コンクールへの出品</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>漢字の書
(行書の古典に学ぶ)</td><td>・行書の学習
「蘭亭序」
「争坐位稿」</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

二学期	古典の学習から創作へ	・行書の創作 ・行書創作作品表具 ・相互鑑賞会	○ ○ ○	○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:行書の創作に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。 b:書の構想を練りながら、作品のイメージを固め、推敲を重ねている。 c:創作の手順を踏み、自分らしい表現をすることができる。 d:創作の手順を理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品
三学期	仮名の書	・仮名の学習 「高野切第一種」	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○	a:漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書こうとしている。 b:漢字と仮名の書風や用筆の調和を工夫している。 c:漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書くことができる。 d:古典を生かし、漢字と仮名を調和させる方法を理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品
	漢字仮名交じりの書	・古典から線質を学ぶ ・構成による表現方法 ・仮名と漢字の調和による表現 ・著作権や肖像権などについて	○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a:漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書こうとしている。 b:漢字と仮名の書風や用筆の調和を工夫している。 c:漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書くことができる。 d:古典を生かし、漢字と仮名を調和させる方法を理解している。 d:題材を選ぶ際の注意として理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。